

3月22日（火）大船渡市で薬局業務支援開始

（坂本賢）

おはようございます。一関から北が開通するようです。嬉しい知らせ！
今日は、調整作業となります。

（坂本賢）

今日から大船渡市にて、調剤薬局の支援です。
この地区の薬局は機能していません。

（中嶋 優太）

賢先生はまだ頑張ってます！
早川さんは自分でボランティアの仕事見つけたみたい！すごい(°-°)
藤田君はその付き添い。みんなエールを☆

（早川洋輔）

大船渡市へ向かって出発。
坂本先生、中嶋先生とは別行動となり、市内の被害状況を確認。
小学校の避難所でボランティアをすることに。
自衛隊が作った臨時浴場に入りに来た被災者へのタオル渡しや誘導などを行った。
被災者の方々は有り難うと喜んで帰ってました。
ちょっとした事でも喜んで載けてよかったです。

（坂本賢）

気仙地区（大船渡市、陸前高田市）の薬局へ入りました。
状況としては、大船渡病院前の3つの薬局と、他には2、3薬局だけしか機能していない。高田に限定するとほぼ全域が被災地。医療機関も当然被災。医療チームによる、支援となっている。
そのため、この気仙地区の被災者は数ヶ所の医療機関に集中している。地元医療チーム、機能している病院、薬局でも、疲弊、トラブルが発生しているようです。

そこで、現在の医療機関（医療資源）、被災者をまもるには・・・

薬剤師は避難所へ！

病院でも聞き取りを行っているが、病院も忙しいため、対応が不十分。受診前のアドバイス

おくすり手帳の確認

手持ちのくすりのメモ作成

「ジェネリック→先発医薬品名」

現状では、集中かなり、地道な作業ですが、将来的に効果が出てくるとおもう。

大船渡病院、地元医療機関を守る！

高田など、無医療機関では、アフガン難民キャンプ同様、医療体制が整備された新しい避難所へ移動。

病院と医療チームの機能分担することも・・・

行政の大胆な行動も必要では？



(藤田雄太)

この日は早川主任と共に行動、午前大船渡の被災状況確認、午後は避難所である盛小学校にて大船渡市役所職員と共にタオル配布・場所案内をした。

被災地確認では、今まで訪れた山田町、釜石と同様に凄惨な光景が至るところにみられる。途中漁港に近くまで出られたが、海は静寂してて、タンカーが静かに目の前を通過していった。

午後、地元住民の話をもとに、大船渡市役所の上にある盛小学校を訪れた。そこまでは良かった。ただ、本来は避難所の状況確認をしてからこれからの予定を組むのだが、私は「ボランティアしたい」と軽はずみな発言をしてしまった。この日一番の失態である。案の定早川主任に叱られてしまった。

話が進んでしまったことを坂本先生に報告し、最終的には盛小学校で活動することになる。

この日一番印象に残った事がある。それは、一冊のノート、すなわち自衛隊が設置した仮設風呂についての感想を利用者に書いてもらうというノートである。そこには、自衛隊への感謝の気持ちが数ページにわたり綴られていた。また、休憩所への案内中、「久しぶりに入ってサッパリした」、「助かりました」と利用

者は語っていた。利用者の表情はとてものにこやかで、我々スタッフを喜ばせてくれた。

（中嶋優太）

今終わりました…。

今日は疲れました。

でも現地で協力してやってる方はもっと疲弊しているでしょう。

家も店も車も家族も、失ってしまった人はザラにいます。

そんな中地域医療の為に頑張っているのですから…

協力しなきゃです！！！！

（早川洋輔）

只今晚飯チャルメラを食べてます。チャルメラがこんなに美味しいとは今日は避難所から風呂に入りに来た方の支援でしたが皆喜んで帰って行きました。明日は別の避難所を回って状況確認してきたいと思います



大船渡市



(中嶋優太)

3月22日(火)

天気：雨

気温：8℃

体調：咽頭痛、鼻炎症状強

今日は場所を移し大船渡市へ。

大船渡市は大きく分けて3~4つの地域からなるようだが、ほとんどの地域は悲惨な状況だが、大船渡地区は高台にあることもあり、比較的震災の被害が薄い。建物の被害はほとんどなく、病院、薬局などは震災前の機能が残っている。

ここが他の地域と異なる点だろう。

他の地域の医療機関が跡形の無く機能を失ったことで、この大船渡地区に多数の患者を受け入れる形になった。

被害が無いから医療を受けられない患者を受け入れて当たり前。

はじめは自分もそう思った。

しかし、震災前の機能が残りすぎて、診療スタイルを変えられない。

その院外処方箋を受け入れる薬局はパニックで崩壊寸前だった。

被害を受けた病院を利用していた患者さんを大船渡地区の病院で受け入れる。院外処方箋100~150前後の病院に、受入当時は400枚以上の院外処方箋が発行された。

しかもお薬手帳の内容がそのまま転記された処方箋。

もちろん在庫していない薬剤がたくさんある。

薬局サイドも被災した薬剤師、スタッフもいることはもちろんで、人材確保も不安定。

そこにいつもの倍以上の患者さんの利用がある。

ひどい時は4時間待ちという状況。パンク寸前という流れだ。

地域のコーディネーターも毎日のように病院、地域医療機関を回ってミーティングを繰り返しているが、診療スタイルは変わらない。

電話が普及していなく疑義照会が困難。

車が流されたり、ガソリンの供給が困難な中での移動も困難。

なかなか状況は改善されない。

病院の薬剤師が問診に携わり、お薬手帳の内容を吟味し、院内採用の薬剤に変更するだけでこの問題はだいぶ改善されると思う。

薬局も今までのスタイルを改善し、多くの患者さんに対応できるように柔軟な対応が必要であろう。

今まで7日→10日→14日で処方がきている。

来週からは30日分という話。

未だこの問題は解決されていない。

患者数が一気に増えた病院、薬局、震災の被害を被った医療従事者の大変な状況も理解できる。

その中でスムーズで質の高い医療を目指し、職業の垣根を越えて地域一帯となって取り組むことが出来るようになることを願いたい。